ペットがSFTSかな？と思ったら

- ☑ 屋外に出る猫や犬で、元気・食欲が全くまたは殆んど無い
- ☑ 下痢・嘔吐などの消化器症状がある
- ☑ 発熱がありそう、またはある
- ☑ 尿が異常に黄色い（黄疸）

などの症状がある場合、かかりつけの動物病院にお電話にてご相談ください。
発症後は、けいれん発作を伴うこともあるため、発作時に人が受傷する事が無いように注意してください。

直接動物病院を受診するのではなく、必ず電話確認をしてから受診するようにしてください。飼い主様はもちろんのこと我々獣医療従事者も感染のリスクがあることを、十分にご理解ください。

公益社団法人
神奈川県獣医師会

SFTSからあなたとペットを守るために
(重症熱性血小板減少症候群)

SFTSに感染した、猫の約６０％、
犬の約４０％が死亡します。
人にも感染します。

SFTSウイルスを保有しているマダニの吸血により伝播する感染症です。
室内のダニとは違うので、室内のみで飼われている猫への感染はありません。
ネコ科の動物に感受性が高いとされており、猫から人への感染には特に注意が必要です。

このリーフレットを
よく読んで
感染しないように
気をつけてください。

どんな症状が出ますか？

猫の場合、熱が出て、元気がなくなり、食欲が低下して、吐いたり、尿が黄色くなります。
犬の場合も猫と同じですが、下痢をして血便が出ます。あっという間に重症になり、感染した猫の約60%、犬の約40%が助かりません。
発症後は、けいれん発作を伴うこともあるため、発作時に人が受傷する事がない無いように注意してください。

治療法はあるのですか？

現在、SFTSに対する特効薬はありません。
入院には隔離が必要なため、全ての動物病院で受け入れられるわけではないこと事をご理解ください。
症状が改善しても、ウイルス消失には時間がかかると考えられますので、排泄物等の取扱いには注意をしてください。

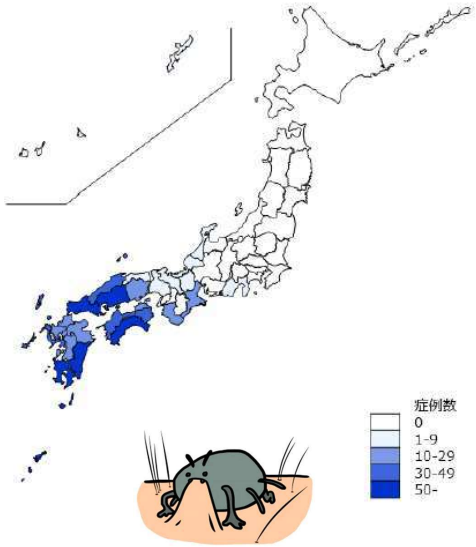
ワクチンや薬で予防出来ないのですか？

ダニ予防薬は推奨されますが、完全な対策ではありません。
有効なワクチンなども存在していません。
猫に関しては、完全室内飼いをお勧めします。
犬を連れて推定感染地域へ山登りやキャンプに行く際は、ご自身のマダニ対策を行うこと事はもちろんですが、犬にマダニがついていないかチェックしてください。特に、頭・耳・指の間など重点的に行ってください。

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について

日本国内における重症熱性血小板減少症候群（以下SFTS）を発症した人の報告は２０１２年が初めてとされています。その後は、西日本を中心に報告されてきましたが、近年では推定される感染地は静岡県を含む２５府県と拡大傾向にあります（２０２１年７月現在）。

SFTS症例の**推定感染地域**（n=641, 2021年7月28日現在）



推定感染都道府県	症例数
石川県	2
福井県	2
静岡県	2
三重県	14
滋賀県	2
京都府	8
兵庫県	4
和歌山県	29
鳥取県	2
島根県	34
岡山県	19
広島県	55
山口県	59
徳島県	33
香川県	13
愛媛県	33
高知県	52
福岡県	21
佐賀県	11
長崎県	44
熊本県	25
大分県	28
宮崎県	83
鹿児島県	55
沖縄県	1
不明	10

（国立感染症研究所HPより抜粋）

SFTSは、ウイルスを保有しているマダニに咬まれる事によって感染する、ダニ媒介感染症です。しかしながら、人以外にも猫や犬も同様に感染することが知られており、さらにはSFTSウイルスに感染した猫や犬に人が咬まれる事によっても感染が伝播されます。過去においては、咬傷によるヒトの死亡例も報告されています。
感染は、咬傷ばかりではなく、感染した猫や犬の体液（血液や唾液）や排泄物（尿や便）に直接触れる事でも起こります。
そこで神奈川県獣医師会では、飼い主様や動物保護活動を行なっている方々、感染動物を扱う機会のある獣医療従事者に対し、正しい知識を得た上で適切な感染対策を行う事をお勧めします。